

レがつきものだが、映画字幕の特性は、主として一画面あたりの文字数と時間という物理的な制約に由来する。CCT は興業と人の認知の限界の産物である。

英語映画の日本語字幕にしろ、日本語映画の英語字幕にしろ、英語がわかる人、英語圏の知識がある人ほど、字幕翻訳に首をかしげることがある。たとえば、*Forest Gump* (Robert Zemeckis 監督) では、"UC Berkeley" が日本語字幕では「UCLA」と訳されている。名訳か迷訳かは措くとして、この訳は映画字幕翻訳の本質的な一面を現している。日本語字幕は日本の聴衆に向けたものだ。UC Berkeley が優秀かつ有名な大学であることが瞬時にわかる日本人は少なからうという判断によっているのは明らかである。

日本映画の英語字幕にも逆向きだが同じことが言える。聴衆は英米圏の人たちが想定されているため、瞬時に「つじつまのあう」、自然な会話と思わせるような訳でなければならない。この瞬時に、というのが大きな制約で、小説の翻訳なら説明的に長々と訳すことも訳注をつけることもできるが、映画の翻訳はそうもいかない。それが、一見すると苦し紛れの訳や誤訳にすら思われるような訳が生まれる理由だ。

しかし、そのような訳にも、その根底には英語圏・日本、英語・日本語それぞれのコミュニケーションの文化的な原理が働いている。字幕翻訳固有の制約があるからこそそのオリジナルと訳の「ズレ」、CCT は、それぞれに言語、コミュニケー

ションの「文化」を浮き彫りにする格好の材料である。

例えば、定式表現は一般にその言語の慣習が生み出した、その言語固有のもので、翻訳不可能な場合が多いが、そのような表現にも背後にそれぞれに文化のコミュニケーションの原理が働いている。

初対面の挨拶をする時に、英語では "Nice to meet you." などの表現があるが、伝統的な日本の挨拶ではこの逐語訳表現はあまり使われないために、日本語字幕でも「はじめまして」、「よろしく」のような訳が多い（ただし、「お会いできてうれしいです。」のような表現も最近ではそれほど違和感なく聞くことができるかもしれない。これは、明治期以来の翻訳文体の受容の問題と考えるべきだろう）。一方、同じような状況で、日本語の話者がしばしば用いるのは「よろしくお願いします。」であるが、これは英語に逐語訳すると、極めて奇異な印象を与えることになる。これら二つの日英語の表現はそれぞれに異なった意味を持っているが、同じような状況で用いられるので、「状況的等価性 (situational equivalence)」があるといえる。

定式表現は、慣習が生み出したものゆえに、恣意的に生まれてきたものと言えるものもあるが、それぞれの文化のコミュニケーションの原理に根ざしている場合も少なくない。ここで働いているのは、社会言語学のポライトネス研究でいうところの積極的面目 (positive face) と消極的面目 (negative face) である (Brown and Levinson 1987)。言い換えると、英語流

の挨拶は人との関わりを重視する連帯の原理（＝積極的面目に関わる）にもとづくコミュニケーションの規範、あるいは慣習が反映したものであり、日本語の慣習的挨拶表現は独立の原理（＝消極的面目に関わる）にもとづく規範、慣習の反映であると言える。

「よろしくお願いします」という言い方が英語にないことには、連帯と独立の原理の発展形である対等の原理（egalitarianism）が関わっている。この原理は一般に英米圏に特徴的と考えられる。「お互いが対等」という原理ゆえに、一方が他方に無条件に依存するということとは、タテマエ上は表には出さない。一方、日本の方は、「私はあなたに頼らなければやっていけない存在です」という謙遜の原理（self-depreciation）があり、かつそのような見せかけの依存はむしろ好意的に受けとめられる（Matsumoto 1988）。

(1)

「引っ越してきましたー。よろしくお願いします。」

↓

”Looks like we’re going to be neighbors! Pleasure to meet you!”

（『となりのトトロ』日本版）

(2)

「とにかく新人ですのでよろしくお願いします。」

↓

”I’m a new comer here, and I look forward to

your cooperation.”

（『ウォーターボーイズ』）

（↓上がオリジナル、↓下が英語字幕訳）

これらの英訳は定型句を訳す2つの典型例と見てよい。一つは、(1)のように、それぞれに異なった意味を持っているが、同じような状況で使う、それに場面として対応する定型表現で訳されている場合で、状況的等価を意図したものだ。一方、(2)の翻訳方略は、できるだけオリジナルの字義的意味を反映させようというものである。ただし、重要なことは、この例のように、たとえ「よろしくお願いします」することを実質的な依頼とするにしても（たんなる儀礼的な挨拶ではなく）、自分を下位者とした他者依存的で、自己卑下的な依頼（嘆願）という訳にはなっていないということである。オリジナルにはない独立と対等の原理にもとづいたCCTになっている。

2. アノテーションの諸問題

このような「文化」的と思われる諸事象を扱う際に、つきまとう疑念は、つまるところそのような訳出は翻訳者の個人的な嗜好やスタイルに帰結するのではないかということだ（個別の事例を見ればたしかにそうである）。これに対するありうる一つの解決法は、可能な限り「ビッグデータ」化を志向することだろう。それによって翻訳者個人の問題ではなく、「文化」の問題として、日英語それぞれのディスコースの特徴を議論の俎上にの

せることができるだろう。翻訳コーパスは翻訳者たちのいわば集合知であり、一翻訳者のクセや個人的なポリシーとは呼べないような分布をコーパスで見ることができる。そしてそれこそが、本論での言語とコミュニケーションにおける「文化」であると考ええる。

本発表者の構築する日本映画英語字幕訳コーパスは、現時点では CCT に特化した、社会言語学・社会語用論コーパスである。オリジナルと字幕訳との「ズレ」にタグを付与することを試みており、基本的には文法タグは考慮の外にしている。それにもかかわらずいくつかの困難がある。もっとも大きな問題は、どの要素にどのような「ズレ」、すなわち CCT のタグを付与するかである。例えば、

1	どうしたんだい、まるで戦だね。	What's that! Must be a battle.
2	行こう、おばさん！	Let's go. Ma'am !
3	船長とお呼び！	Captain to you !
4	シャルルよ、もっと低く飛びな。	Lower, Charlos.
5	やめて！もうやめて！	Stop ! Stop it !
6	お願い！	Please !
7	ママ！ゴリアテが動き始めた。	Mama. Goliath's moving.
8	このままいくとあいつの弾幕に飛び込んでしまう！	We're going dircotly into the crossfire.

『天空の城ラピュタ』

においては、一般的に見れば、「ズレ」はさほどないようにも感じられるかもしれない。しかし、呼称、人称（代名詞）、モダリティ、ダイクシスが担う社会言語学的、社会語用論的要素だけでも「ズレ」であるかの判断はそう単純ではない。

例えば、呼称については、行2におけす「おばさん」→”Ma'am”を「ズレ」と

考えるか否かはいくつかの判断がありうるだろう。行7の「ママ」→”Mama”ですらもその等価性は自明ではない。

また、行8における「このままいくと...じまう」というオリジナルの要素は英語字幕では”are going”が担っていると考えられるし、行1の「まるで...だ」は”Must be”というモダリティで翻訳されていることが果たして CCT というべきかも問題である。

さらに、行1の「どうしたんだい」にはダイクティックな要素がないにもかかわらず、訳には”What's *that*?”とダイクティックな要素が現れ、行3における「船長とお呼び！」の、日本語では一般的に現れにくい二人称代名詞（対称詞（鈴木 1972））的要素は、英訳では”to you”と現れ、行8の「あいつの弾幕」の他称詞は”the crossfire”定表現に訳される諸要因にも十分な考察を要するだろう（新村 2006、新村・ハヤシ 2008 等参照）。

どの側面を扱うにせよ、最終的にはアノテーター（本発表者）の判断による部分があることは避けられないが、これらの点については、認知言語学的視点（池上 2006 など）、コミュニケーションの生態学的視点（井上 2005）などを取り込んださらなる精緻化が必要であり、本コーパスもいまだその途上である。とにもかくにも、これらの問題をすべて扱うことは本発表の時間の枠をはるかに超えている。

3. 二つの「セツゾク」の文化意識 (CCT)

そこで本発表では、以下の2つの「セ

ツゾク」の CCT を取り上げることにする。

- ・ 「連帯」、「独立」、「対等」の原理に関わるディスコース上の「ズレ」
- ・ エスノメソドロジー (ethnomethodology) でいうところの隣接応答ペア (adjacency pair) に関わる「ズレ」

3.1 独立・連帯・対等の原理

例えば、『となりのトトロ』に、少女メイが父親の仕事場のそばで遊ぶシーンがある。父親は書斎で原稿を書いている。メイは戸の開け放たれた庭で遊んでいるが、時折父親のところに来て、なにやらことばを投げかける。メイは庭でつんだ花をいくつか父親の机にならべて発するセリフとその英語訳 (DVD 日本版) は以下である。

(3)

「お父さん、お花屋さんね」

↓

"Dady, I'm a flower lady"

たしかにこの日本語は「お父さん、（あなたが）お花屋さんね」と「お父さん、（私は）お花屋さんね」との曖昧性があるかもしれない。しかし、おそらく多くの日本語話者にとっては解釈は二義的にならず、一見、誤訳であるかのようにも見えるだろう。しかし、本稿では詳細を省くがコーパス上の他の多くの事例と合わせて見ると、これが独立の原理に根ざ

していると判断することが妥当と思われる。たとえ相手が父親であっても（というより、小さな子供であっても）相手の独立を脅かすこと（「お父さん」に「お花屋さん」の役を強要すること）には抑制がかかっているのであろう。

また、『千と千尋の神隠し』には、先輩のリンが千に対していうセリフとその英訳が以下のようにある。

(4)

「いまカマジイのどこいかねえ方がいいぞ」

↓

"I wouldn't go to Kamajii now."

「私ならいかない」という、これも相手の独立性を尊重した、押しつけない言い方である。

以上のような CCT は英語圏文化において独立の原理が強く働いていることを示唆している。このような原理がそれぞれの言語の「セツゾク」を構成しており、ディスコース上のつながりをもたらしているのである。

（このような「ズレ」のない事例についての議論は本稿では省略する。）

3.2 対話性

日本語話者には逆にひょっとすると気づきにくいかもしれないことに、日本の映画のやりとりではしばしば隣接応答 (Sacks, Schegloff and Jefferson 1974) が成立しているように見えて、成立していないことがある。つまり、話しかけられて

も「無視する」(かのように見える)のである。これは英語の会話としては、きわめて不自然、無礼な振る舞いで、「セツゾク」を欠いていると受けとめられると考えられ、隣接応答が成立しているように、つまり無視せず相手の発話に応答する形で CCT が施される。これは、日英語それぞれの特徴の一端を表すことになるだろう(思えば、日本語には店員の「いらっしゃいませ」のように応答を要求しない表現がある。英語圏では、店員は客に Hello などと挨拶をし、客も店員に挨拶を返すのが通例である。英語圏のような社会では、くしゃみにすら Bless you と反応する)。

一般に、日本映画で無口な登場人物も英語版ではおしゃべりである。その点では、英語圏の方が連帯の原理が強く作用していると言える。

4. おわりに

本コーパスが示すことは、あらゆる発話において明確に CCT と判断しうる訳出がなされているということではない。また、それが本論の目論見でもない。本発表で示したいことは、あるカテゴリーの CCT は独立、連帯、(+/-) 対等(「-対等」は「自己卑下」、「謙遜」)の原理に関わりながら産出されているということだ。言い換えれば、本発表でとりあげる、ディスコースや対話の「セツゾク」がこれらの原理によって構成されているということである。

このことは、いわゆるポライトネス現象がいかにかにプリヴァレントなものである

かをも物語っており、この分野の新たな可能の展開の一つをも示していると思われる。

引用文献

- Brown, Penelope & Levinson, Stephen C. 1987. *Politeness: Some Universals in Language Use*. Cambridge University Press.
- 池上嘉彦. 2006. 『英語の感覚・日本語の感覚』(NHK ブックス)
- 井上逸兵. 2005. 『ことばの生態系—コミュニケーションは何でできているか—』慶應義塾大学出版会
- Matsumoto, Yoshiko. 1988. "Reexamination of the universality of face: Politeness phenomena in Japanese" *Journal of Pragmatics*, 12: 403-436.
- 新村朋美. 2006. 「日本語と英語の空間認識の違い」『月刊言語』35(5): 35-43.
- 新村朋美・ハヤシ, ブレンダ. 2008. "This, That and It from a Cognitive Perspective." 『日本認知言語学会論文集』8: 439-449.
- Sacks, Harvey, Emanuel. A. Schegloff, and Gail Jefferson. 1974. "A simplest systematics for the organization of turn-taking for conversation." *Language*, 50 (1): 696-735.
- 鈴木孝夫. 1972. 『ことばと文化』岩波新書

ゼロ接続としての文脈
(Contexts as zero-connectives)
鍋島弘治朗 (Kojiro NABESHIMA)
関西大学 (Kansai University)

1. はじめに

「はがゆい唇」

Mon amant de la colonial

2. デフォルト文脈としてのフレーム

ミンスキー、ゴッフマン、フィルモアのフレーム

授業、買い物、社交的会話、運動会、コンサート、懇親会

ゴッフマンの論じるフレーム—もしくは「第一次フレームワーク」—とは、それ自体は意味をもたないむきだしの出来事の流れを、なんらかの組織だった意味あるシーンとして経験させる、経験の組織化の前提、もしくはその「原理」である
[FA:¹10-11, 21]

安川編(1991:10)

a data-structure for representing a stereotyped situation. (Minsky, 1975: 212)

3. 語レベルの文脈

3.1 文脈主義 (Recanati, 2004)

(1) a. John's book

b. John finished the book.

(2) I've had breakfast

(3) (手をすりむいて泣く子供に母親が) You are not going to die!

(4) Everybody went to Paris.

(5) a. He eats rabbit.

b. She wears rabbit.

¹ Frame Analysis の略。Goffman (1974)。

- (6) ATM swallowed my card.
 (7) There is a big lion in the middle of the piazza.
 (8) He went to the cliff and jumped.
 (9) Mary took out the key and opened the door.
 (10) The policeman raised the hand and stopped the car.

- (11) a. John cut the cake. (sliced) b. John cut the grass. (mowed)

3.2 意味の弾性

—cut の例—

Just as... some mathematical functions take different interpretations depending on whether they take an even or an odd number as argument, so the word ‘cut’ has different interpretations... but these different interpretations are determined by the different arguments — grass, hair, cake, skin and cloth... On this account it is the word ‘cut’, together with the literal meaning of ‘grass’, that determines that in ‘cut the grass’ ‘cut’ has a different interpretation from the literal meaning of ‘cut’ in ‘cut the cake’. (Searle 1980 : 224)

—big mouse の例—

The same sort of analysis applies to the other examples. Consider ‘big mouse’: a big mouse is not big in the same sense in which a big elephant is ; for an elephant just as big as a big mouse would not count as a big elephant. The occasional meaning of ‘big’ clearly depends upon the noun it modifies. But this can be accounted for by assuming that the constant meaning of ‘big’ is a function the value of which is the occasional meaning of ‘big’. That constant meaning can be represented as an open predicate, big for an x, where the free variable stands for the argument of the function; the occasional meaning will be the predicate we get when the free variable is assigned a particular value, which value will be determined by the noun which the adjective modifies. So the occasional meaning of ‘big’ will be big for a mouse in ‘big mouse’, and big for an elephant in ‘big elephant’. On this analysis, again, the occasional meaning is an aspect of the

meaning of the complex noun-phrase ‘big mouse’ or ‘big elephant’, and that explains why (like the meaning of the complex noun-phrase) it depends, in part, upon the meaning of the noun which the adjective modifies.

意味の弾性の形式化

CUT IN THE MANNER OF X

BIG FOR AN X

We must acknowledge that the value of the free variable is not fully determined by the linguistic context.

Searle による反駁(*cut*)

It is easy to imagine circumstances in which ‘cut’ in ‘cut the grass’ would have the same interpretation it has in ‘cut the cake’, even though none of the semantic contents of the words has changed. Suppose you and I run a sod farm where we sell strips of grass turf to people who want a lawn in a hurry... Suppose I say to you, "Cut half an acre of grass for this customer"; I might mean not that you should mow it, but that you should slice it into strips as you could cut a cake or a loaf of bread. (Searle 1980 : 224-5)

Suppose we run a bakery where due to our super yeast strain our cakes grow upwards uncontrollably. «Keep cutting those cakes!», I shout to the foreman, meaning not that he should slice them up but that he should keep trimming the tops off. (id.)

Heim and Kratzer による反駁(*big-small*)

Imagine we had first introduced a scenario populated with an army of monsters like King Kong. We might then have said something like ‘Jumbo doesn’t have a chance; he’s only a small elephant’, and this could have been true even if Jumbo were as large as or even larger than most other elephants. (Heim and Kratzer 1998 : 71)

The big₁ elephant is not big₂

Big for an elephant is not big compared with the monster.

A small₁ elephant is not small₂

Small for an elephant is not small compared with other animals/objects.

3.3 認知文法による説明

3.4 ニューロンレベルの説明

4. 文レベルの文脈

5. 文脈による接続の類型

Selected Bibliography

Heim, I. and A. Kratzer 1998. *Semantics in Generative Grammar*. Blackwell.

<http://eecoppock.info/CompositionalSemantics/HeimNKratzer.pdf>

Minsky, M. 1975 "A Framework for Representing Knowledge," in: Winston, Patrick, eds. *The Psychology of Computer Vision*. New York: McGraw-Hill. 211-77.

Recanati, F. 2004. *Literal Meaning*, Cambridge University Press.

Recanati, F. 2007 *Perspectival Thought*, Oxford University Press

Recanati, F. 2009. Compositionality, Semantic Flexibility, and Context-Dependence. *Oxford Handbook of Compositionality* の草稿

http://jeannicod.ccsd.cnrs.fr/docs/00/42/91/34/PDF/Compositionality_Flexibility_and_Context-Dependence5REV7.pdf

Searle, J. 1980. The Background of Meaning, in J. Searle, F. Kiefer, and M. Bierwisch (eds.) *Speech Act Theory and Pragmatics* (Dordrecht: Reidel), 221-32.

安川一 1991. 『ゴフマンの世界の再構成』 世界思想社

日本語の独話における接続詞「で」の機能
(Discourse Functions of an Additional Connective *de* in
Japanese Monologues)

石黒 圭 (ISHIGURO Kei)
一橋大学 (Hitotsubashi University)

1. はじめに

本研究は、日本語の接続詞「で」が、談話産出のさいに行っている機能を、コーパスから明らかにすることを目的としている。

その目的を達成するために、映画の視聴に基づく独話、および旅行の体験に基づく独話において、「で」の①出現頻度、②先行文脈、③後続文脈、④ほかの接続詞・フィラーとの組み合わせという四つの観点から調査を実施した。本発表では、その結果を報告する。

また、同様の資料から収集したデータを用いて、用法が部分的に重なる中国語の「然后」、英語の *and* の振る舞いを簡単に報告する。

2. 先行研究

接続詞「で」の研究は独話で多く行われ、接続関係の広がりを探る研究、その独自の機能を探る研究に大別される。

接続関係の広がりを扱った研究には、太田・井佐原 (2003)、石島・中川 (2004)、山本 (2004) などがある。

独自の機能を扱った研究には、高橋 (2001)、Watanabe (2002)、小出 (2009)、石黒 (2010) などがある。

3. 「で」の機能

3.1 添加の接続詞としての機能

フィラーと見なされることもあるが、①先行文脈の内容を受ける、②原則として節の先頭で使われる、③「それで」との交替が見られるといった点から接続詞と見なすのが妥当であると考えられる。

また、その働きは、添加の接続詞と呼ばれる「それから」「あと（は）」ものと同種であり、対等な関係にあるものを加算的に結びつける働きを持つ。

3.2 つなぎ言葉としての機能

一方、接続詞「で」は、「それから」「あと（は）」などよりもさらに未分化であり、接続関係を積極的には示さず、もっぱらつながることに関心があるように見受けられる。そのことは、①接続関係にまたがって使われる、②接続詞の二重使用で先頭に立つ、③書き言葉で消えるといったことからわかる。

つながることに関心があることから、話を続ける機能を有し、直前で話が終わらず、まだ続きがあるということを示す。

なお、*and*について Schiffrin(1987:128)が指摘した”*And has two roles in talk: it coordinates idea units and it continues a speaker's action.*”のうち、前者が 3.1、後者が 3.2 に相当すると考えられる。

3.3 切る言葉としての機能

つなぎ言葉としての「で」と矛盾するようだが、並列の接続詞としてまとめどうしを結びつけ、かつ、いったん途切れた関係を結びつける以上、直前には談話の切れ目があるように感じられる。

話し手にとっては、直前の文脈を終結させ、その文脈から離れ、類似の新たな話題の結節点を探るときに使う。一方、聞き手にとっては、直前の文脈が終結し、その文脈から離れ、類似の新たな話題が始まることを予測しながら聞くことになる。

3.4 三つの機能のまとめ

3.1 からは、直前でその話題が終わらないことを示し、記憶から類似のものを呼びだし、先行文脈に加える働きがあることがわかる。

3.2 からは、限られた時間のなかで、文字に残らない談話を整理していくさいに、素朴かつ単純な方法で、即興的に談話構造を示すのに役立つことがわかる。

3.3 からは、新たな話題を開始する起点として情報を整理し、情

報を呼び出す環境を整えることがわかる。

まとめると、「で」は局所的な談話の構成に拘泥せず、並列的に展開する話の本筋を追うのに便利な接続詞である。

4. 調査の概要

調査は 2011 年の夏から秋にかけて収集した。調査対象者は、都内の日本人学部学生 48 名である。そのうち、男性 12 名、女性 12 名には、「無声映画」(『岸边のふたり』という 8 分程度の短編アニメーション映画)を見た直後に、その内容について語ってもらった。残りの半数には、男性 12 名、女性 12 名には、自身の「旅行体験」について語ってもらった。

2 種類のテーマ設定をしたのは、「視聴経験に基づく浅い記憶」と「直接経験に基づく深い記憶」を表出するさいに、違いが生じるか否かを見るためである。

「無声映画」談話例

『岸边のふたり』っていう題名の映画でした。えっと父と小さな少女、娘が、自転車に乗って、岸へ向かいます。で、そこから、お父さんは、別れを惜しみながら、船に乗って、遠くへ行ってしまう。子どもは見送って一人で家路につきます。で、雨の日も風の日も父の帰りを期待して、岸边まで少女は通い続けます。で、やがて、少女は、大人の女性になり、{後略}

「旅行体験」談話例

で、えーとエジプトのピラミッドなど見まして、で、そのあとに、モロッコに行って、えーとモロッコを、陸路でバスとかで移動しながら、そうですねえーと、きれいな街、あの白い街並みとかを見まして地中海の、で、えースペインに渡って、スペインの友達んちに行きました。で、そのスペインに留学してる友達がいたので、そのスペインのセビリアの友達の家は何泊かして、{後略}

5. 調査の結果

5.1 出現頻度

	映像・男性	映像・女性	体験・男性	体験・女性
で	87	89	154	87
それで	8	62	23	15
それから	0	4	3	2
あと（は）	5	4	20	39

「で」は「それで」とともに頻度が高く、つなぎ言葉として働くことがわかる。

5.2 先行文脈との関係

	映像・男性	映像・女性	体験・男性	体験・女性
文	49	52	38	27
過去	15	27	6	5
非過去	18	15	7	5
節	38	37	116	60
中止	33	32	86	41
非中止	4	2	20	9

「で」は節との共起も多く、添加の役割を果たすことがわかる。

5.3 後続文脈との関係

	映像・男性	映像・女性	体験・男性	体験・女性
格助詞(が)	27(15)	21(9)	50(17)	28(10)
非格助詞(は)	19(15)	17(12)	45(33)	13(9)
無助詞	0	1	7	9
述語	5	10	12	16
時間	7	15	18	13
場所	5	8	16	4
展開	24	17	6	4

「で」は導入部で使われ、話題や状況の再設定に使われることがわかる。

5.4 ほかの接続詞・フィラーとの組み合わせ

	映像・男性	映像・女性	体験・男性	体験・女性
接続詞	7	13	15	3
それで	5	12	2	1
フィラー	44	32	77	30
えー	20	11	8	2
それで	6	8	11	5
なんか	2	4	8	11
まあ	12	2	27	1

「で」は二重使用の先頭で見られ、未分化である一方、フィラーともよく共起し、話題の切れ目で用いられることがわかる。

6. 中国語母語話者・英語母語話者の「で」相当の接続詞の使用

6.1 中国語母語話者の「然后」の使用

中国語母語話者 12 名（中国国内の大学の学部生、すべて女性）にも同様の調査を行ったところ、接続詞「然后」の使用は、映画では延べ 237 回（6 名、1 名平均 39.5 回）、体験では延べ 234 回（6 名、1 名平均 39.0 回）の使用となっている。日本語の「で」（1 名平均 8.7 回）よりもさらに広い機能を担っていることが予想される。

6.2 英語母語話者の *and* の使用

英語母語話者 4 名（日本の大学に留学中の 4 名の学部生、すべて男性で国籍は英 2 名、米 1 名、豪 1 名）にも映画についてのみ同様の調査を行ったところ、接続詞 *and*（語句の接続は除く）の使用は延べ 143 回（4 名、1 名平均 35.8 回）の使用となっている。英語は SVO 型であるという点で中国語と同じであり、「然后」と共通する部分があるように感じられる。

7. まとめ

日本語の接続詞「で」が有する三つの機能のうち、①「添加の接続詞としての機能」は、節に後続する機能が多いことから、②「つ

なぎ言葉としての機能」は、出現頻度が高いことや、二重使用の先行要素として使われやすいことから、③「切る言葉としての機能」は、後続文脈に話題や状況を設定する要素が来やすいことや、フィラーが出現して表現や内容の検索がよく行われることから、それぞれ理解できる。

また、SOV 型の日本語とは異なり、SVO 語順の中国語や英語は、添加の接続詞が「で」よりも広い機能を持つため、頻度が高くなる。

参考文献

- 石黒圭 (2010)「講義の談話の接続表現」『講義の談話の表現と理解』くろしお出版, pp.138-152
- 石島満沙子・中川道子 (2004)「日本語母語話者の独話に現れる接続詞『で』について」『北海道大学留学生センター紀要』8, pp.46-61
- 太田公子・井佐原均 (2003)「話し言葉の接続詞「で」の特徴」『情報処理学会論文誌』 pp.44-10、pp.2444-2447
- 小出慶一 (2009)「発話行動における『で』の役割—「で」のフィラー化をめぐる—」『埼玉大学紀要(教養学部)』44-2, pp.27-40
- 山本貴昭 (2004)「談話における接続詞『で』の用法—女性話者の談話を対象として—」『国文学攷』181、広島大学、pp.13-27
- 高橋淑郎 (2001)「談話における接続詞「で」の機能」『国語学会 2001 年度春季大会発表予稿集』 pp.132-129
- Schiffrin, Deborah. (1987). *Discourse Markers*. Cambridge: Cambridge University Press.
- Watanabe, Michiko. (2002). Fillers and Connectives as Discourse Segment Boundary Makers in an Academic Monologue in Japanese. 『東京大学留学生センター紀要』12, pp.107-119.

付記

本発表は、科研費基盤研究(C) 研究代表者：石黒圭「日本語母語話者と中国人日本語学習者の作文・独話・対話に見る接続詞使用の対照研究」(2011～2013 年度) の成果の一部である。

日本英語学会公開シンポジウムアンケート用紙

(お帰りの際に発表会場または受付にて備え付けの箱にお入れ下さい。)

1. 発表内容についてご意見・ご感想をお聞かせ下さい。
2. 英語学に対する関心が深まりましたか？もしそうなら、どのような点についてですか？
3. 所属について以下の項目に該当するものに○をお付け下さい。
高校生 学部生 院生 社会人 その他 ()

-----キ---リ---ト---リ---セ---ン-----

Memo

日本英語学会大会アンケート用紙

(お帰りの際に発表会場または受付にて備え付けの箱にお入れ下さい。)

1. 発表内容・運営方法についてご意見・ご感想をお聞かせ下さい。

(必要があれば、該当の部屋番号または記号をご記入下さい。)

従来型ワークショップ：第()室，研究発表：第()室

公開シンポジウム A 室，シンポジウム：()室

2. シンポジウムの企画についてご希望があればお寄せ下さい。

-----キ---リ---ト---リ---セ---ン-----

日本英語学会大会アンケート用紙

(お帰りの際に発表会場または受付にて備え付けの箱にお入れ下さい。)

1. 発表内容・運営方法についてご意見・ご感想をお聞かせ下さい。

(必要があれば、該当の部屋番号または記号をご記入下さい。)

従来型ワークショップ：第()室，研究発表：第()室

公開シンポジウム A 室，シンポジウム：()室

2. シンポジウムの企画についてご希望があればお寄せ下さい。

日本英語学会大会アンケート用紙

(お帰りの際に発表会場または受付にて備え付けの箱にお入れ下さい。)

1. 発表内容・運営方法についてご意見・ご感想をお聞かせ下さい。

(必要があれば、該当の部屋番号または記号をご記入下さい。)

従来型ワークショップ：第()室，研究発表：第()室

公開シンポジウム A 室，シンポジウム：()室

2. シンポジウムの企画についてご希望があればお寄せ下さい。

-----キ---リ---ト---リ---セ---ン-----

公開シンポジウム・シンポジウム質問用紙

質問者氏名：

所属：

質問したい講師氏名：

質問内容：

公開シンポジウム・シンポジウム質問用紙

質問者氏名：

所属：

質問したい講師氏名：

質問内容：

-----キ---リ---ト---リ---セ---ン-----

公開シンポジウム・シンポジウム質問用紙

質問者氏名：

所属：

質問したい講師氏名：

質問内容：

日本英語学会 アンケート

平成 25 年 11 月 9 日-10 日

会員の皆様には、日頃より、日本英語学会にご支援とご協力を賜りましてありがとうございます。

さて、皆様もご承知のように、本学会は昨年度に30周年を迎えました。本学会では、これまで、充実化と活性化のために、①大会関係、②学会誌*EL*関係、③国際化関係、④電子化関係、⑤広報関係、⑥顕彰制度関係において、下記に示すようなさまざまなことを実施して参りましたが、新たな10年間を見据えて、更なる発展と充実化・活性化を図るために、とるべき策を模索しているところです。

つきましては、上記①～⑥に関するご意見やご要望がございましたら、いかなることでも結構ですので、これまでの実施事項を参考の上、是非お書きくださいますようお願い申し上げます。また、それ以外のことで、このようにしたら日本英語学会はもっと充実化・活性化し、魅力的になるのではないかと、というようなご意見やご要望がございましたら、⑦に是非お書きくださいますようお願いいたします。日本英語学会の発展のために、ご協力を賜りますようよろしくお願いいたします。 日本英語学会事務局

★ご回答者の年齢をお伺いします。該当するところに○印をお付けください。

a. 21歳から30歳 b. 31歳から40歳 c. 41歳から50歳 d. 51歳から60歳 e. 61歳以上

①大会関係

・これまでの実施事項：

1) *Conference Handbook*の発行（1988年度） 2) ワークショップの導入（1991年度） 3) *JELS*の刊行（1995年度） 4) スチューデント・ワークショップの導入（2002年度）

・大会関係について、ご意見・ご要望があれば、以下にお書きください。

②学会誌*EL*関係

・これまでの実施事項：

1) *EL*の年2回の発行（1999年度） 2) Advisory Committeeとして約40名の海外研究者の導入（2002年度）

・学会誌*EL*関係について、ご意見・ご要望があれば、以下にお書きください。

③国際化関係

・これまでの実施事項：

1) 国際春季フォーラムの開催（2008年度） 2) 韓国英語学会との協定合意書と補則の締結（2012年度、2013年度）

- ・国際化関係について、ご意見・ご要望があれば、以下にお書きください。

④電子化関係

- ・これまでの実施事項：

1) 紙媒体の*EL*と併せてCD-ROM版の配布(2004年度) 2) 発行後4年経た*EL*のバックナンバーのアーカイブ化と電子公開(2009年度) 3) 発行後2年経た*EL*の電子公開(2013年度) 4) 紙媒体*JELS*のCD-ROM版化(2013年度)

- ・電子化関係について、ご意見・ご要望があれば、以下にお書きください。

⑤広報関係

- ・これまでの実施事項：

1) 広報委員会の設置(2009年度)；現在、英語版を含めてホーム・ページの改訂作業中。

- ・広報関係について、ご意見・ご要望があれば、以下にお書きください。

⑥顕彰制度関係

- ・これまでの実施事項：

1) 日本英語学会特別賞の設置(2003年度) 2) 日本英語学会特別功労賞の設置(2007年度) 3) *EL*研究奨励賞の設置(2010年度) 4) 日本英語学会新人賞と日本英語学会賞(著書)と日本英語学会賞(論文)の設置(2010年度)

- ・顕彰制度関係について、ご意見・ご要望があれば、以下にお書きください。

- ⑦その他、日本英語学会の発展と充実化・活性化に向けてご意見・ご要望があれば、以下にお書きください。

11月新刊

英語学点描 久保田 正人 著

何が書かれているかを知るには、どう書かれているかを正確に把握しなければならない。本書は、著者が渾身の力を込めて実践した解釈作業の一端を含む、英語学と認知論の論考である。

世界に向けた日本語研究 遠藤喜雄 編

世界で話題になっている言語研究のトピック（ムード、発話行為、副詞、形容詞、複合語、フォーカス表現等）について、日本語研究から貢献が期待できる一般性を備えた論考を取り揃えた論文集。（執筆者）（五十音順）
遠藤喜雄／小川芳樹／岸本秀樹／高野祐二／野田尚史／西山國雄／仁田義雄／前田雅子／益岡隆志／森山卓郎／山木戸浩子

Deep Insights, Broad Perspectives: Essays in Honor of Mamoru Saito

宮本陽一・高橋大厚・牧 秀樹・越智正男・杉崎鉦司・内堀朝子 編
斎藤衛南山大学教授の還暦記念論文集。国内外の第一線の研究者が、日英語を中心に多様な言語に関して、最新の研究成果を寄稿。

Patterns and Categories in English Suffixation and Stress Placement: A Theoretical and Quantitative Study 三間英樹 著

A Cognitive Analysis of the Grammaticalized Functions of English Prepositions: From Spatial Senses to Grammatical and Discourse Functions 大谷直輝 著

9月新刊

ことばと意味 児玉徳美 著／A5判 312頁 定価3780円

主語・述語からなる文と、文を連ねた言説の間には意味や文脈情報において大きな違いがみられる。語・文から言説にまで分析対象を拡大し、言語活動の全域に迫る。

開拓社叢書②

心理言語学の中のサプライズ

言語行動から出づる心理

山田 純 著／A5判 224頁 定価2940円

第一級の心理言語学者が邂逅したサプライズ群を蒐集し、筆者の経験も交えながら、解説、考察を加えた心理言語学の手引書。

開拓社 言語・文化選書

10月新刊

40 文法とは何か 音韻・形態・意味・統語のインターフェイス

西原哲雄 著／184頁 定価1785円
統語論から音声・音韻部門、意味論や形態論（語形成）、語用論などの分野への関係性を明らかにする。

41 知覚と行為の認知言語学 「私」は自分の外にある

本多 啓 著／232頁 定価1995円
日常的な表現を素材として、生態心理学を取り入れて言語の意味を見ると、どのような展望が開けるか。

42 ことばを読む、心を読む 認知語用論入門

内田聖二 著／212頁 定価1995円
ことばには限りがある。限られた文字情報からいかに話し手、書き手の「心」に迫ることができるのだろうか。

10月新刊

英語定型表現研究 歴史・方法・実践

八木克正・井上亜依 著／A5判 356頁 定価4200円
フレイジオロジー研究の歴史、意義、発展の経過を述べ、新たな視点からフレーズを再考し、分析の方法と結果を提示する。

開拓社叢書②

英語の仮定法 仮定法現在を中心に

千葉修司 著／A5判 320頁 定価3465円
豊富な言語データと研究資料により、読者は仮定法研究に新たな言語学的視点と活力を見いだすことができるだろう。

6月までの新刊

言語研究のためのプログラミング入門

Pythonを活用したテキスト処理

浅尾仁彦・李在鎬 著／A5判 288頁 定価3360円 **6月刊**
英語や日本語の言語分析のための具体的な処理例を多数収録。

書評から学ぶ 理論言語学の最先端

（上）（下） 畠山雄二 編／上下巻ともA5判 248頁 定価3360円

（執筆者）寺田寛・縄田裕幸・野村泰幸・早瀬尚子・本田謙介・田中江扶・鈴木孝明・白畑知彦 **6月刊**
最近の理論言語学の論文・本を上下巻で100レビュー。

言語変化 動機とメカニズム

中野弘三・田中智之 編／A5判 336頁 定価4830円 **4月刊**
名古屋大学英文学会第50回大会記念、英語学研究室による論文集。

ことばで考える ことばがなければものもない

安井 稔 著／A5判 304頁 定価3675円 **3月刊**
ことばのない思考はありうるか—ことばの本質に切り込む問い。

第二言語習得と英語科教育法

JACET SLA研究会 編著／A5判 408頁 定価3360円 **2月刊**
第二言語習得論からみた英語教育学の理論と実践の両面を解説。

Current Issues in Japanese Phonology: Segmental Variation in Japanese

Jeroen van de Weijer・西原哲雄 編／菊判 184頁 定価5040円 **1月刊**
主に日本語の文節音韻論におけるバリエーションについて扱う。

◆最新刊◆1〜35 巻も好評発売中!!

〈四六判〉

39 英語接辞の魅力 語彙力を高める単語のメカニズム

西川盛雄 著／240頁 定価1995円 **6月刊**

38 対人関係の言語学 ボラリティネスからの眺め

福田一雄 著／224頁 定価1995円 **6月刊**

37 外国語はどこに記憶されるのか

学びのための言語学応用論
中森誉之 著／224頁 定価1890円 **3月刊**

36 スペイン語とともに考える 英語のラテン語彙の世界

山中和樹 著／200頁 定価1785円 **3月刊**



2014 年度 新刊英語テキスト

● BBC World Profile on DVD

BBC やさしい英語と映像で学ぶ総合英語

森田 彰／萱 忠義／佐藤 明彦／原田 慎一／高橋 礼子／Cuong Huynh 著
BBC ドキュメンタリーで英語力向上を目指すフルカラー DVD 教材！

● Gateway to College English

文法から学ぶ大学基礎英語

表 正幸 著
主語 (S) と動詞 (V) の役割理解を中心とした初級レベル向け教材！

● Listening Elements

大学生のための『リスニングエレメント』

Terry O'Brien / 三原 京／根之木 朋貴／木村 博是 著
実践的な練習を通して、基礎的なリスニング力を養う好教材！

● Do Your Own Project in English <Volume 1>

プロジェクト発信型英語

鈴木 佑治 著
「プロジェクト活動」を通して自発的な表現の場を創造するテキスト！

● Life Topics <Advanced>

総合英語ライフ トピックス 2

島岡 丘／Jonathan Berman 著
『クリティカル・シンキング』を取り入れた、好評総合英語教材第 2 弾！

● Global Issues Towards Peace

DVD で学ぶ共存社会 ―グローバル時代を考える

達川 奎三／Walter Davies / 田頭 憲二／山本 五郎／田北 冬子 著
DVD でグローバル時代における「共存社会」を理解・発信・議論する！

● It's Time to Read!

楽しく読んで学ぶ基礎英語

八木 茂那子／町田 純子／Siobhán Ryan 著
楽しく読めるエッセイで英語の基礎力向上を目指すテキスト！

● English Listening and Speaking Patterns

『パターン』で学ぶ英語コミュニケーション

Andrew E. Bennett 著
実践的なパターンエクササイズでコミュニケーション能力を高める！

● BusinessWeek: Eye on Japan and the World

『ビジネスウィーク』で読み解く国際社会

村上 直久 著
米国の経済週刊誌 *Bloomberg BusinessWeek* で世界を読み解く！

株式会社 **南雲堂**

〒162-0801 東京都新宿区山吹町 361
TEL: 03-3268-2311 / FAX: 03-3268-2486
E-mail: nanundo@post.email.ne.jp



本書は発表者が提出した原稿を写真製版して作成しました。

本書に掲載されている論文・資料の著作権はその発表者にあります。

2013 年 11 月 9 日発行

編集・発行 日本英語学会

代 表 者 大庭幸男

発 行 所 日本英語学会

<http://elsj.kaitakusha.co.jp/>

〒113-0023

東京都文京区向丘 1-5-2

開拓社内

電話 (03) 5842-8900

印 刷 所 ケーエスアイ

©日本英語学会 2013
